

令和6年度 瀬戸内タウンミーティング意見交換要旨（瀬戸内市民図書館）

令和6年9月22日（日曜日）

午前10時～正午

瀬戸内市民図書館 つどいの部屋

参加者：男性 9人、女性9人 合計18人

★意見交換要旨★

- ・ゼロカーボンシティを目指すことは本当に現実的なことなのか。今後、太陽光発電と蓄電池を利用して進めていくとのことだが、安全性に関するリスクについて全く周知されていない。実際に家庭に設置した太陽光パネルの事故事例もある。太陽光パネルの材料には有害物質も含まれる場合があるので、リサイクルできなければ将来土壌汚染・海洋汚染につながる恐れがある。設置することのメリット・デメリットはきちんと市民に周知するべきではないか。特にメガソーラー発電所は、次世代へ負の遺産を残すことになると思う。この先も増えていく太陽光パネルなどの設置について、設置場所など市として規制はしないのか。

（市長）

太陽光発電については様々な意見があることは承知している。様々なリスクを考えて不安に思う人の気持ちも理解できる。私たちがどのように向き合っていくか考えたときに、明らかに製造物責任として瑕疵があるものに対してはしっかりと対策を行わなければならないが、今の段階で明確にそれらの危険性が立証されていると判断できない。このような起こりうるリスクに盲目になることなく、しっかりとアンテナを張っていなければならないと思っている。原子力・火力・風力発電も、どんな発電事業にもリスクは付き物だが、それらを受け止め、どのように対処するかが私たちに課せられた責任だと思っている。それらを整理し、瀬戸内市としての方針を考え、国などが許可して製品化されている太陽光発電、蓄電池を使い、市としてできることを考えている。市内で発電した電力を市内で使うことが最もロスがなく経済効果が見込める。

これらによって脱炭素・ゼロカーボンシティの推進が実現できるかどうかは、様々な考え方があるかと思うが、我々は単に二酸化炭素を減らせた方がいいとは思っていない。二酸化炭素を減らす取り組みを通じて、地域に眠っている色々な資源をもっと活用できるのではないかと考えていきたい。また、周辺部の空地利用などで、経済効果を生み出す仕組みをどう作るかも考えていきたい。

自然環境や人体の健康を脅かすものではないことは大前提だが、与えられた条件のなかでどのように市民の皆さんにご理解いただきながら進めていけるかを考えるの

が行政の責任だと考えている。

処分方法は皆さんが特に気になる点だと思う。現在、徐々に再利用について様々な技術が開発されているので、すべて埋め立てるのではなく、最も良い処分方法を私たちも考えていきたい。

規制は必要だと思っている。何か規制できることがないか、都市計画の策定のなかで議論している。建築物だと規制の対象になるが、太陽光発電パネルは建築物ではないので都市計画のなかで規制は厳しい。市の景観条例など他の条例で規制をすることは可能性があると思う。規制の内容を広げることについて考える必要はあると思う。なるべく自然景観と防災面を考慮した開発を進める必要がある。皆さんが不安に思う点についてこれからも十分に受け止めながら対応していきたい。

- ・進学校のあるまちにするために邑久高校をさらに活性化してほしい。また、市内に大学を設立できないか。

(市長)

邑久高校は学校の特色を活かして頑張っていて、普通科は倍率も伸びている。県立高校なので市としてできる支援を積極的に行っている。魅力のある学校になるよう、引き続き応援していきたい。

大学側は、設立となると立地条件の良さを考えて選ぶ傾向がある。そういった話があれば積極的に誘致はしていきたいと思う。

- ・以前、市民病院に入院してお世話になったが、医師・看護師をはじめ理学療法士、作業療法士など病院で働く皆さんが大変良くしてくれて、心から感謝している。現在、高齢のため運転免許を返納し、タクシー券を利用しているが、すぐなくなってしまうのでもっと交付枚数を増やしてほしい。

(市長)

そのように言ってもらえて大変ありがたい。市民病院に勤務する職員へ伝える。タクシー券は財源の問題もありすぐに交付枚数を増やすことは難しい。現状としては、年間の枚数を上手く活用してタクシーをご利用いただきたい。

- ・国や地方の一番の問題点は少子高齢化だと思う。今後も確実に進むので、年金制度や介護保険制度など、若い現役世代が高齢者を支える仕組みや制度自体を廃止すればいいと思う。子どもたちの将来を考えたとき不安が多い。今の制度に代わる新しい政策・仕組みづくりを今から始めるべきだと思う。

(市長)

高齢者1人を現役世代3人で支える構造が、将来的には高齢者1人を現役世代1人で支える構造へ変わっていくといわれている。年金制度は、成り立つようにその都度

修正していくと思われる。1人が1人を支える状態になった際には、年金額を大幅に減らすなど、支える側の負担が軽くなるような制度変更になると思う。

高齢者の方々は、足らない部分は自前で何とか捻出する手段を取ることも必要になる。みんなが平等に負担しながら知恵を絞っていくことになると考えている。

- ・マイナンバーに市民一人一人の情報を紐づけて登録することによって「この人にはこの支援・政策を」というように、それぞれの状況に応じた必要な支援や政策を管理できるようにならないか。

(市長)

マイナンバーカードについては一長一短あり、市民の皆さんの行動をつぶさに把握するというのは難しい。どこまでの情報をマイナンバーと紐づけて活用するかは国民・市民の皆さんの合意形成が必要となる。効率化できる部分で、個人のプライバシー侵害にならない範囲で積極的に活用していく必要があるということで、今はマイナンバーカードの健康保険証としての利用が始まっている。

例えばタクシーやバス、図書館などでの活用方法もあると思うが、マイナンバーカードに対して不安を感じている人もいる。そういった状況であることを把握しながら、市として活用できるところは進めていきたい。

- ・駅前整備をしているが、今後交通の流れが大きく変わると思う。駅前の道は徒歩の通学者も通勤車両も多く渋滞しているが、交通対策はしているか。

(市長)

道路計画をどのように作っていくか考えることが重要だと思う。新しい道路を作ることが今の時代に合っていて正しいのかどうかを含めて、動線を考える必要がある。交通量調査をしっかりと行った上で、特に駅前周辺については重要な場所になるので、どのように対応するかが重要になると思う。都市計画の中で道路計画をきちんと作って考える必要がある。

- ・都市計画の導入については、良くなる部分もあるが、色々と負担が増える部分もあると思うので、そのことについても記載してほしい。また、都市計画が導入されて無秩序な市街化がなくなること、自由さがなくなり、まちの発展が制限されることにならないか。

(市長)

どういった負担やデメリットが生じるのかよく分からないという意見は皆さん持たれていると思う。正直なところ、導入してみないと分からないところもある。都市計画を導入することによって、宅地の開発や造成が進むのか、それとも土地の価格が高くなり止まってしまうのか、不確かなところがある。今は宅地に転換できる場所が

どんどん少なくなってきており、新たに宅地を造成しようとする、農業振興地域を「農地にするより駅が近いので宅地にした方がいい」「幹線道路に面しているから商業地にした方がいい」ということを農政局と議論しなければならない。議論の際は、何の計画に基づいているのかが重要になるが、瀬戸内市にはそういった計画が何もない。都市計画を策定してはじめて計画性のある議論ができる。この点は、都市計画を導入するねらいのひとつでもある。

都市計画税について心配されるかもしれないが、現時点では都市計画税を負担してもらうことにはなっていない。まちに新たな公共投資がなされることによって、地域の価値は上がっていくので、ある程度の地価の上昇は見込まれる。固定資産税は増えるかもしれないが、一方で資産価値は高くなる。資産価値が高くなれば、様々な開発が生まれる可能性がある。

居住環境を良くするためには一定の投資が必要で、投資が行われるためには、財源とルールが必要となる。そのためには都市計画という枠組みの中で議論することになる。

- ・地域にある公園など、既存の物を維持するために一生懸命取り組んでいる。公園のことなどで市役所へ相談に行っても、「これは都市計画があれば対応できるが今はできない」と言われ取り合ってもらえない。維持管理を止めるわけにはいかないの、都市計画の導入に関わらず、担当部署だけでなく組織横断的にもう少し考えて色々な施策を実現させてほしい。

(市長)

公園については、都市計画を導入しなくても実現できることは行っているが、都市計画を導入することによって「都市公園」の位置づけができ、公園の整備に使える財源を得ることができる。維持管理費も交付税という形で得ることができるので、既存の施設などの維持管理に一生懸命取り組んでいただいている皆さんに、市も協力することができる。今できることを行いながら都市計画の導入を目指したい。

- ・宅地造成など新しい施策を進めると、これまで多くの人の手によって作られ、守られてきた自然環境や施設が減っていく。新しくするばかりではなく、今あるものについて目を向けこれまでの歴史などを知ることによって「これからも大事にしたい」「瀬戸内市っていいところだな」という気持ちが生まれると思う。自分が住んでいる地域や普段何気なく使っている施設などは多くの人たちの努力によって維持されているということ、地元を大事にしようということを子どもたちに教えていくべきだと思う。

(市長)

地元を愛する気持ちというのは、地域の人たちが大切にしているものをしっかり知ることから始まると思う。色々な地域の行事に参加して体験を通じて地元を大

切に思う心のある子どもたちを増やしていくことが、魅力ある瀬戸内市を維持していくことにおいて非常に大切なことだと思う。市外からたくさんの人に移り住んでもらうことだけを重視するのではなく、生まれ育った人たちが瀬戸内市に住み続けたいと思ってもらえる教育とまちづくりをしていくことが大切だと思う。そのまちづくりに対して「瀬戸内市っていいな」と感じて集まってきた人を温かく受け入れていくという好循環が生まれたらいいなと思う。